



発行 社会福祉法人 聖友ホーム  
聖友乳児院（乳児院）  
聖友学園（児童養護施設）

聖友ホーム  
100周年  
解体イベント

多くの卒園者が訪れ、在園者とともに  
施設改築に向け解体される園舎に  
別れを惜しみました

社会福祉法人聖友ホーム100周年を記念して、2022年9月3日～6日に児童養護施設と乳児院の合築に向けた解体前イベントを行いました。

生活した建物を見て懐かしみ、感謝とお別れをするために、卒園生・退職者・ボランティア等、聖友学園に縁のある方々をご招待しました。

「育ったところに行く」という思いで来てくれた方もいました。

久しぶりに来園するきっかけとなり、40年前に卒園した方、40年以上勤めた方など、4日間で88人もの方々にお越しいただき、懐かしみの仲間や職員達との思い出話に花が咲いていました。当時を振り返りながら「もうこの年で悪いことはしてないよ」と昔の悪さも今となっては良い教訓になっていたり、「（職員の）体調大丈夫？」と心配してくれたり、「私だって働いてるよ。高校の時とか全然勉強しなかったのにこんなに勉強するんだってくらい勉強した」と成長を見せてくれたり



1987年に創建された当時（上）と現在の園舎（左）



思い出がいっぱいの居室の壁に、お別れの落書き



初秋に園舎との最後の一日  
卒園生を含む関係者が集いました



…元気な姿を見せてくれて感慨深い時間となりました。イベントでは、ホームで使用していた食器や絵本などの思い出の品をご自由にお持ち帰りできるコーナーや、各ホーム毎の思い出のエピソードを綴ったボードを展示し、「これ覚えてる！」という声も聞かれ、当時の生活を懐かしめる空間となりました。

「今までありがとう」「これからも連絡するね」そんな関係性を築けたこと、とても嬉しく思います。

<2022年9月10日>

在園児向けのイベントとして、解体する施設への感謝とお別れを込めて落書きイベントを行いました。

生活したホームを訪れ、当時の記憶を思い出しながら見て回りました。引っ越しをして空になったホームに少し寂しさを感じながらも感謝の気持ちや過ごしていた証を書いていました。

今回のイベント撮影に協力して頂いた  
東和コーポレーション様より児童にお菓子を頂きました。

聖友学園 保育士 関 悠希

# 皆さん、こんにちは！ 聖友乳児院です。



今回は乳児院では  
どんな生活をしているかを  
一部ですが紹介させて  
頂きます！



写真は日中の主な活動です。天気  
が良い日にはお散歩に行き公園や神  
明宮まで出掛けたり、中庭に出て滑  
り台や砂場で遊んだりしています。室内では  
ブロックやおままごとセット等でゆったりと  
遊ぶ時もあります。

赤ちゃんたちはスキンシップを多く取り入  
れたふれあい遊びや日光浴をしたりします。



子どもたちは遊ぶこ  
とが大好きで、元気い  
っぱい毎日遊んでいま  
す！

季節に合わせて色々  
な遊びをしたり、公園へ行ったりもします。子  
どもたちは初めて見る物に始めは緊張しますが、  
慣れると沢山遊びます！帰る時には「もっと遊  
びたい！」と言うほどです(´▽´)

食事はみんなで一緒に食べます！「美味しい  
ね」と共有したり、苦手な物を食べる時に応援  
したりとみんなでワイワイと食べるため、子ど  
もたちも楽しく食事をしています。

一部ですが、子どもたちの普段の様子をお届  
けしました！

子どもたちの元気パワーを皆さんに届けられ  
たかなと思います(\*´▽`\*)

子どもたちの一日の流れなどはホームページ  
にもありますので、是非そちらも見てもらえ  
たらと思います(´▽`)/



七夕やクリスマス等イベントがある  
日はご飯もとっても素敵なメニュー  
になります☆ メニューはホームペ  
ージにあるので是非  
見て下さい！



聖友乳児院 保育士 伊藤 加奈枝

# 2021年度 松坂自立援助基金 の事業報告



※松坂自立援助基金とは聖友学園に在籍している児童や卒園生の自立を援助する為に1987年に創設された基金です。毎年寄付を頂いている方やHPや広報誌（ぴーちっこ）を見て寄付を頂いている方々のお力で成り立っています。基金創設以来、聖友学園の子どもたちの社会への第一歩の一助となってきました。昨今の若者の生活環境は、その労働条件など以前に増して厳しくなるかと懸念されています。今後とも皆様の基金へのご賛同ご協力をよろしくお願いたします。

〈受給者から松坂自立援助基金に賛同の皆さまへの御礼メッセージ〉

## 支給

20歳の祝い金1万円を6名へ  
渡しました。

今回の100周年イベントでも  
渡しました



### 20歳の祝い金を頂いた卒園生：住まいは都外

この度は20歳のお祝いを頂きありがとうございます。

僕の周りには特別お祝いしてくれる方がおらず、少し寂しく思っていたところ、学園の職員さんから電話をもらって聖友学園で会うことになりました。久しぶりに職員さんにも会うことができ嬉しかったです。

僕なりに仕事は頑張っており、少しずつですが貯金もできているので今のところお金には困っていませんが、この先の人生はやはり不安なので1万円を頂けて嬉しいです、少しだけ贅沢をしようと思います。

また今回のお祝い金の受け渡しを通じて学園の職員さんにも会うことができたので、そのような機会にもなっており嬉しいです。これからも頑張ります。本当にありがとうございました。

## 支給

就労激励金1万円を  
就労続いた卒園生6名へ  
渡しました。



### 就労激励金を頂いた卒園生：住まいは都外

この度は就労激励金を頂きありがとうございます。聖友学園を出た後に就職した会社で今も働いていますが、正直何度も「辞めたいな」と思うことがあります。その時には学園の職員に愚痴を言ったり、会って一緒に食事をしながら励ましてもらったりと僕の支えになってもらいながら、今もなんとか頑張っています。

そして今回、松坂自立援助基金の方から就労激励金を頂き、僕の知らない会った事もない方々も自分のことを応援して頂いていることを知りました。会ったことはない皆様ですが、僕の支えになってくれて、本当にありがたく思っています。

今回頂いたお金は車購入の為に貯金にさせていただきます。この度は本当にありがとうございました。



## 貸付

四年制大学への進学費用として、  
1名に対して支援をしました。  
1,267,300円



### 進学費用貸付金を頂いた卒園生：住まいは都内

大変な時期もありますが、アルバイトも両立しながら、文学部にて学生生活を頑張っております。

卒業年度に聖友学園に来て、奨学金申請等をしてきましたが、納期までに初年度学費が工面できなかったため、生活に支障が出ないように返済計画を立てて貸付けを申し込みました。

※返済は生活に支障が出ないように年度毎に25万円ずつ返済しています。また卒業したら、50万円は返済免除となるため、卒業年度に支給に切り替える予定です。



## 職員エッセイ

## 改築に伴う栄養士の仕事の変化

## GH（グループホーム）の食について

GH化になるまで、本園で生活している子どもの食事は、厨房（調理棟）で作っていたため、主に本園にいる時間が多く、発注業務や厨房での仕込み・ご飯作り等を行っていました。よって、栄養士としての業務（子どもたちの食事状況の把握、食事に課題がある子への支援、新人職員へのサポート等）に費やす時間は、あまりとれませんでした。

GHへも、月1～2回程度巡回を行い、食事作りに入っていましたが、子どもたちとも顔を合わす頻度が少ないと、マナーについての話や、課題がある子に対しての支援も切り出すことがなかなかできず、苦戦の日々を過ごしていました。

全ホームがGH化になってからは、厨房での業務は無くなり、栄養士としての業務に力を入れられるようになりました。会議を通してホームの状況を把握でき、食事面の課題から支援の方法を考える時間がとれています。調理職員もホームへと交代制で配置されるため、情報を共有してホームの現状がより細かく見えるようになりました。

また、新任職員や調理に対して、不安がある職員への対応にも、聞き取りだけではなく、食事作りの時に指導・助言を伝える時間も増えました。

ホームへ足を運ぶことも増えたからか、子どもたちから献立の要望が増え、また一緒に作る機会も多くなっています。話せなかった子ども、顔をたくさん合わせるようになって、徐々に打ち解けてきました。食事指導もできこれまでとは違って、関わり方は充実していると感じます。

ホームでご飯を作るのが日常になって、子どもたちからは「おいしい」の声を多く聞きます。ホーム職員も子どもがおいしく食べられるよう、工夫して取り組んでいますし、一緒にご飯を作ることで食への興味を持ちつつあります。ただ、ここしばらくコロナになってから、会話を最小限に抑えなければならないし、イベントも会食はホームだけの食事です。献立も食卓に並べることができなくなったので、楽しい食事については課題を感じています。

みんなでワイワイ楽しく食べると、より食事は楽しいものと感じられ、子どもたちの生活の安定に繋がると思うのですが、コロナに関わらず個々の食に対しての課題は、日々多くあげられており難しいです。食事は生きるために必要なことであり、生活を通して色んな経験を学べるので、そのためにも引き続き、より良い食の支援に向けて頑張りたいと思います。

聖友学園 栄養士 前林 菜穂美

職場  
便り

ライフストーリーワーク（以下LSW）プロジェクトが発足して2年目に突入しました。前年度のプロジェクトリーダーは聖友乳児院の山田里親交流支援員、今年度は聖友学園の小澤児童指導員となりました。

講師の徳永先生の講義も前年度に比べ、より専門的になってきており、メンバー全員がLSWについての知識が蓄えられ、現在はいかにしてLSWを実践したらよいか検討しているところです。

来年度からは実際に入所している児童のケース検討等、さらに実践的なLSWに取り組む予定ですので、これからも様々なことをたくさん吸収し活かせるようになろうと思います。

次号では発足してから最新のLSWプロジェクトの活動を詳しく紹介していこうと思っています。次号もお楽しみに！ 聖友乳児院 保育士 稲垣詩乃

## LSW（ライフストーリーワーク）

子どもにとって重要な事実（生い立ち、家庭の状況、入所理由など）を支援者との間で分かちあい、肯定的な自己物語を形成するための支援です。子どもが主体的に生きていけるように、過去・現在・未来（見通し）を軸として、自分の生きてきたこれまでの整理。気持ち・事実・エピソードを踏まえて、子どもと共有してイメージを持ってもらえるように働きかけています。（聖友ホームLSWオリジナル手引書より）